

岐阜大学の活力(いぶき)を地域から世界へ発信する広報誌

学び 究め 貢献する

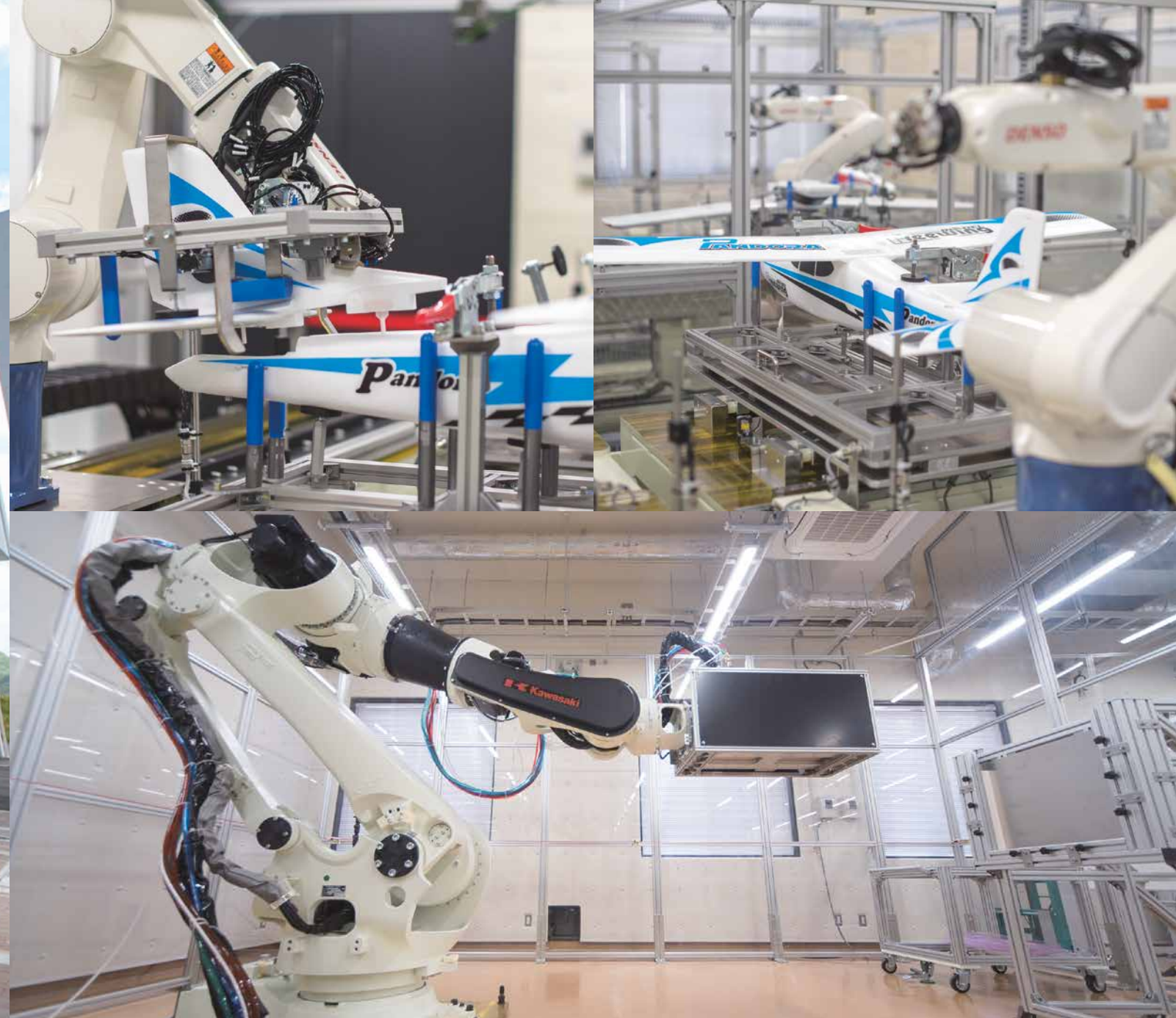


岐大の いぶき

2021
Spring-Summer No. 41

学びを環にする





「東海国立大学機構 航空宇宙研究教育拠点 航空宇宙生産技術開発センター」 国内初の航空宇宙生産技術に関する教育・研究拠点。
 写真の施設が令和3年4月から岐阜大学キャンパスにて本格運用開始。

岐阜大学の活力(いぶき)を地域から世界へ発信する広報誌

岐大の いぶき

2021
Spring-Summer No. 41

published by



[表紙写真]

社会システム経営学環教員

04-11 【特集】学びを環にする

岐阜大学社会システム経営学環

12-15 岐大で生まれるもの。最先端研究の現場。

岐阜大学教育学部 社会科教育講座 田中 伸 准教授
 岐阜大学工学部 電気電子・情報工学科 久武 信太郎 准教授

16-17 ひらけ！授業の扉

全学共通教育科目「学びをデザインする」

18-19 いまを駆ける！岐大生FACE

Interview 看護師のたまごのためのWEBサイト「看たまノート」運営者 野村 奈々子 さん

20-21 コロナ禍における岐阜大学の教育学生生活に関する取り組み

22 岐阜大学基金

岐阜大学社会システム経営学環

経営にイノベーションをもたらし
実践的な能力を修得した人材を養成。



岐阜大学には、教育学部、地域科学部、医学部、工学部、応用生物科学部があり、幅広い分野で教育・研究を行ってきました。岐阜県に立脚する大学として、地方創生、地域活性化に貢献するという大きな役割を担っています。ただ、この役割を十分果たすためには、何かが足りないと考えてきました。その答えとして辿り着いたのが「経営マネジメント分野の教育」です。工学部や応用生物科学部が積み重ねてきた研究成果に、経営的視点を加えることで、地域活性化に貢献する力をより一層高めていけるのではないかと考えたのです。

私たちが後押ししたのは、地域のステークホルダーからの切実な声です。岐阜県の経営者協会、商工会議所連合会、経済同友会などの経済団体に加え、岐阜県高等学校長協会や高等学校からも、地域活性化に寄与する人材養成の場がほしい、経営マネジメント分野の人材を求めているといった強い要望がありました。岐阜県では少子高齢化、人口減少、産業の衰退などが急速に進んでいます。さらに昨今は、自然災害の問題にも直面しており、地域が抱えるさまざまな課題を実践的に解決できる人材が求められています。こうした状況を踏まえ、経営マネジメント分野を教育する組織を設立しようと平成28年にワーキンググループを発足。平成30年4月には新学部設置準備室を立ち上げ、着々と準備を進めてきました。

これまでの大学の学士課程教育は、文部科学省が「学部」を基本に整備を進めてきましたが、令和元年8月に制度改正が行われた結果、大学の設置基準が見直され、新たに「学部等連係課程」という制度が設



加藤 厚海 教授

岐阜大学社会システム経営学環長
肥後 睦輝 教授

けられることになりました。これは、大学が持つ教員や施設など既存の資源を活用し、2つ以上の学部が連携することを条件に、新たな教育組織の設置を認めるという制度です。岐阜大学では、かねてから経営マネジメント分野を創設する方針を打ち出してきました。ただ、「新たな学部を開設する」などさまざまな案を検討してきたものの、どれもハードルが高いという結論に至りました。そんな折、学部等連係課程制度が新設されることが決まり、この制度を

活用して組織を立ち上げる方向で話がまとまったのです。経営マネジメント分野の新たな組織の設置が決まったものの、問題とならなかったのが組織の名称です。学部でないのであれば、どんな名称にすべきなのか。文部科学省とも議論を重ね、独自の名称を掲げていいという指針が示されたことから、岐阜大学でさまざまな候補を挙げて熟慮を重ねた結果、「社会システム経営学環」という名称に決まりました。学環という名称は、すでに他大学の大学院

などでも使われていますが、学部等連係課程制度で作られる学士課程の教育組織としては日本初となります。受験生の中には「学環」というなじみのない名称に戸惑う方もいるかもしれませんが。そこでパンフレットなどには必ず「学環」の後に(学部相当)と記載しています。入学試験を受けて学環に入学し、4年間の勉強を経て卒業する。その点では学部に入学生と何ら変わりありません。一番の違いは、既存の大学の施設を活用し、他学部と兼任する教

員たちで構成されている点にあります。教員14名の全員が社会システム経営学環の専任教員ですが、そのうち13名は、他の学部にも所属しており、一部の授業科目などを担当しています。中小企業の視点を大切にしたい。地方創生につながる経営学を指導。岐阜県が抱える課題の多くは「ビジネスデザイン」「まちづくりデザイン」「観光デザイン」の3つに集約

きると考えています。そこで社会システム経営学環では、この3つの分野を中心にしながら「経営」をベースにした教育を展開していきます。1・2年生では、3つの分野を深く掘り下げるための基礎となる「経営学」について学びます。その上で、2年生後期からは、「ビジネスデザイン」「まちづくりデザイン」「観光デザイン」の分野のいずれかを選択し、より専門的な課題に経営学の視点から取り組んでいきます。そして、3年生前期からは、専門演習が始まります。卒業研究の指導教員を決めるイメージで特定の教員に付き、より深い分野に絞った知識を身に付けていきます。

そもそも現在の経営学の源流は、19世紀のアメリカで生まれました。自由に往来できる鉄道が整備されたことで巨大な市場が誕生し、これに伴って大企業が成長していく中で、管理職を養成するためにビジネススクールで経営を教えるようになったのが起源です。アメリカでは、ビジネススクールを卒業しないと出世することができません。キャリアアップが資格とセットで語られるような社会であり、就職先の企業内で成長していく日本とは大きく事情が異なります。

日本の大きな特徴は、経済を支える企業のほとんどが中小企業であるということ。個人事業を含む中小企業は企業数全体の99.7%で、従業員数でも7割近くを占めています。地方の暮らしを支えているのは多くの中小企業です。私たちは岐阜県の活性化に貢献する意味でも、中小企業にフォーカスを当て、地方創生につながるような経営学を教えていきたいと考えています。

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、日本人の働き方は大きく変わり始めています。長年にわたり一つの企業で勤め続けるという時代が終わり、副業を含めてより柔軟な



働き方が実現できる社会へと変わりつつあります。社内外にうまくネットワークを広げ、プロジェクトを円滑に推進していく。そんな個性を活かして働く時代に対応した経営学を教える場を目指しています。

経営学を、机上だけでなく現場に出向いて実践的に学習

従来の経営学は、基本的に座学でした。机上で学ぶものであり、実際の企業や自治体に出向いて一緒に仕事をするようなことはありません。ただ、私たちの使命は、地域の抱える課題に具体的に取り組むことのできる人材を輩出することです。であれば、学生のうちから現場に入り込むことが大事だろうと考え、社会システム経営学環のカリキュラムには1年半にわたる長期の実習を2回(合計3年間)取り入れています。経営学を基本としながら、現場でもしっかり学んでもらうことが狙いです。現場が抱える現状の課題を肌で感じ、次の段階としてその課題解決に向けた取り組み

を実践していきます。

1年生から3年生の間に、2回に分けた長期実習が続きます。通常の大学の授業では、こうした実習は半期で終了することがほとんどですが、1年半の長期スパンで実習に取り組む機会を設けることで、経験の積み上げができる点にメリットがあります。まずは半期で実習を行い、その成果をきちんと検証した上で、次の半期ではさらに新しい取り組みへ広がっていくといったことが可能です。私たちはこれを「継続的発展型」と呼んでいます。単発で終わりではなく、段階を踏みながらさまざまな課題に取り組む力を養っていきます。

私たちが目指しているのはPBL (Project Based Learning) 型の実習です。「課題解決型学習」ともいわれますが、学生自身が企業や自治体へと足を運び、関係者から困っていることを引き出し、ディスカッションしながら解決策を実行へと移していく。これがPBL型の実習です。こうした実習に1年半にわたって取り組むことで、何らかの成果が必ず生まれてくるはず。例えば、「商品のラベルを開発した」「業務の改善点を見つけた」など、小さなことでもいので必ず成果をお返しするような「成果還元型」の実習にしていきたいと思えます。

また、1年生前期から2年生前期にかけて行うマネジメント活動実習では、1年生と2年生の前期の期間が重なり、2年生後期から始まる3つのデザイン実習(ビジネス・まちづくり・観光)においても、2年生と3年生の後期の期間が重なります。「混在型教育」と呼んでいます。これらの期間では実習の進み方に応じて、異なる年次の学生たちが一緒に学び、経験を積んだ学生、初めて取り組む学生が、それぞれの視点を突き合わせながら議論をしたり、グループワークを行ったりします。上の年次の学生にとってはすでに経験済みの内容ですから、自然と教える側に回ることになり、また違ったモチベーションで実習に臨むことができます。

多角的な視点を養うための学部横断的教育と往還型教育

実習では、当然ながら企業や自治体、各種団体との調整が必要になります。今まではこれを教員個人が行っていましたが、社会システム経営学環では、実習をより円滑に行うために「地域協議会」を設置しているのも特徴です。

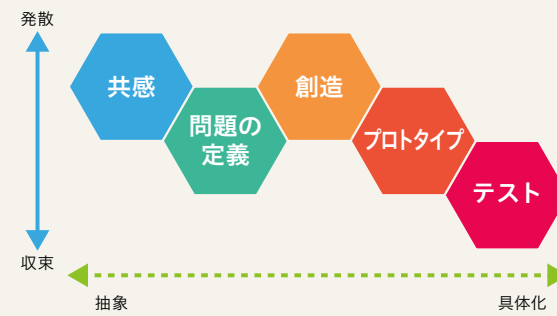
地域協議会は、外部の方に参画していただき、実習の組み立て、運営、計画、実施、成果についてご意見を



岐阜大学社会システム経営学環では、1年生から3年生の間に長期の実習を実施。講義を通して身に付けた知識を実社会で実践し、学びを深める。

{ デザイン思考教育とは? }

デザイン思考 5 steps



スタンフォード大学 d.school デザイン思考5つのステップ(一部改変)。この5つのステップに沿って課題に取り組むことで、デザインを専門的に学んでいなくても、デザイナーのような思考プロセスでアイデアを創出できる。デザイン思考教育では、このような問題解決の思考法を学ぶ。



川瀬 真弓 助教
デザイン思考論

デザイン思考における「デザイン」とは、単なる見た目の問題ではなく、もう少し抽象的な意味を指します。岐阜大学ではデザイン思考を「人の周辺で発生している問題の本質を特定して課題設定し、望ましい状態を構想し実現する思考活動」と捉え、特にグループで問題を分析する現状分析力、課題を発見するアイデア生成力の向上を目指しています。

岐阜大学ではすでに大学院自然科学技術研究科修士1年生の必修科目「デザイン思考序論」などでデザイン思考を取り入れた授業を展開していますが、社会システム経営学環では、特にコミュニティ中心のデザインに主眼を置いています。コミュニティの場で起きていることを理解し、問題を定義する力を習得しながらも、課題が発生する現場に身を置くことで、デザイン力、マネジメント力を備えたグローバルマネジメントリーダーの育成を目指しています。

INTERVIEW

特任教授インタビュー



前澤 重禮 教授
組織リーダー論

私は特任教授という立場で社会システム経営学環の教育に関わります。長年にわたり、応用生物科学部において、現場を重視する流通学に深く関わってきました。現場重視の姿勢でいると、社会の変化をリアルタイムで感じ取ることができ、価値観が進化していきます。皆さんは、教室の中で、座学として教科書や資料から情報を入力し、正解を覚えることに注力しがちです。しかし、社会には座学では得られない別の世界があります。社会システム経営学環では、座学と学外実習のセット学習が仕組みられているので新たな気づきと行動が誘導されます。多くの大学生は、毎日の生活に大き

な不満がないのに、「もっと納得できる日々を過ごしたい」「でも何をやっていいか解らない」という心境のようです。このモヤモヤ感を一掃するには、小さなことでいいので、今すぐできることをやりきり、達成感を味わいましょう。例えば、講義室では一番前に座る、毎日一つの講義で必ずAIMS*で先生に質問する、といった行動を積み重ねると、結果が生まれます。この新しい結果は自信に繋がり、新しいことにチャレンジする習慣が生まれ、充実感が出てくるでしょう。

社会システム経営学環で、心の底から納得できる学生生活を実現しましょう。

*AIMS…岐阜大学の学生の学習を支援するシステム

いただくための組織です。現時点では、岐阜県庁、県内の民間企業などから6名の方に委員としてご参加いただくことが決定しています。ただ、今後はもっと多くの企業の皆さんが自由に参加でき、私たちが行う実習や教育について積極的に議論できるオープンな場を作っていきたいと考えています。そして、実習だけでなくカリキュラム全般についても外部からさまざまな評価をしてもらえればと思っています。

カリキュラムの大きな特色は、「学部横断的教育」と「往還型教育」です。これまでも他学部の授業科目を履修する制度はありましたが、あくまで、学生が個人的に興味を持ったものを自発的に履修する仕組みでした。社会システム経営学環が取り組む「学部横断的教育」では、社会システム経営学環のカリキュラムの中に、あらかじめ他学部の授業を組み込んでいます。全82科目のうち、20科目が他学部の授業となっており、大きなウェイトを占めています。地域が抱える課題は、さまざまな分野にまたがっています。そのため、他学部の学びを横断的に得ることで、学生に多角的に物事を見る考え方、知識を養ってもらうのが狙いです。さ

らに、名古屋大学経済学部と連携した授業も盛り込まれています。

特色のもうひとつは、講義、実習、演習を単独で実施するのではなく、それらを関連付けながら実施する。つまり講義を受けた後、実習に参加し、そこでの気づきを活かした形でまた講義を受ける、という往還型教育です。往還型教育では、講義で学んだ知見を実習等で活用し、さらに実習による学びを講義で理論化する、そして再び実習で実践することで、高い教育効果が得られると考えています。

ファミリービジネスの後継者や起業家の育成なども視野に

令和3年4月から始まったばかりの組織ですから、今後はまず「絵に描いた餅」をきちんと具現化すること、設置時に盛り込んだ内容を着実に実行していくことが一番の目標です。そして、卒業生の就職についても道筋を立てていきたいと考えています。

地元や県外の民間企業や金融機関、自治体など、文系学部の学生たちの一般的な就職先を想定していますが、それ以外にも、ファミリービジネスの後継者の育成や起業家の



輩出なども視野に入れていきます。いきなりベンチャーを立ち上げるだけでなく、就職先の企業で社内起業を行うようなケースも想定していますし、観光分野においては、地域の観光資源に精通し、地元と連携しながら観光名所を生み出す法人として注目されている「DMO (Destination Management Organization)」で活躍する人材なども育てていきます。社会システム経営学環では、実習を通じて、地域のさまざまな企業や自治体を訪問します。こうした経験を通じて、学生たちにはたくさんの企業や自治体を知ってほしいです。こうした経験が、就職時のミスマッチを防ぐことにもつながると考えています。

さらには、4年後に向けた大学院の創設についても前向きに検討していきたいと考えています。まだ具体的な案は出していませんが、社会システム経営学環を卒業し、そのまま大学院へと進学する学生だけでなく、社会人や留学生も取り込みながら、多様な人材がともに学べる場を作りたいです。

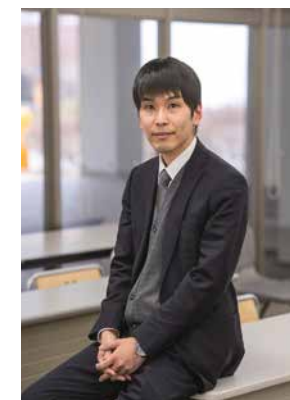
最近では、文部科学省が地方大学の定員増を認める方針を打ち出していることから、これをうまく活用しながら、定員増も検討していきたいです。

そのほかにも、社会人向けの組織リーダー育成講座や企業の若手人材育成を目的とした研修プログラムの提供なども視野に入れていきます。地域の方々と手を携えながら、岐阜県が抱えるさまざまな課題に向き合い、その解決に向けて貢献していきたいと思っています。

INTERVIEW ビジネスデザインプログラム



柴田 仁夫 准教授
マーケティング論



市来 嵩 治 准教授
生産管理論



加藤 厚海 教授
経営学



前澤 重禮 教授
組織リーダー論

地域の企業に足を運んで現場を知り、実社会で役立つ応用力を磨きます。

ビジネスデザインプログラムでは、従来の経営学分野、つまり経営資源である「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」を効率的に活用し、成果を得るための方法論について学んでいきます。

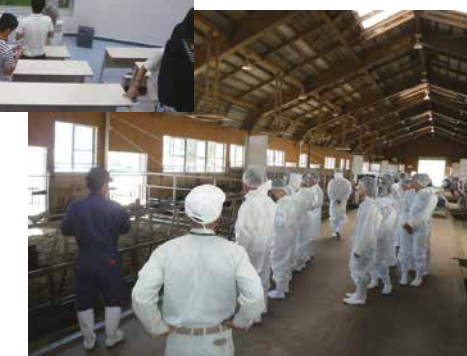
プログラムの中心となる1年半のビジネスデザイン実習では、まずは実際に自分でビジネスの課題を抽出し、その上で、どのように解決すべきかを分析して解決に導くという一連の流れを経験していきます。農業を一例に挙げると、一連のビジネスのなかには生産者である農家、出荷業務や資材の提供などを行う農協、農作物を販売する小売店、さらには農作物を使って料理を作る飲食店や旅館など、さまざまな企業や人が絡んでいます。実習ではまずビジネスの全体像を俯瞰的に捉え、どんな人が関わりを持っているのかを把握していく。その上で、「農家の立場で考える」「小売店の課題解決を支援する」

など、より具体的な組織にフォーカスしながら、関係者とのディスカッションや調査を通じて課題の解決法を考えていきます。

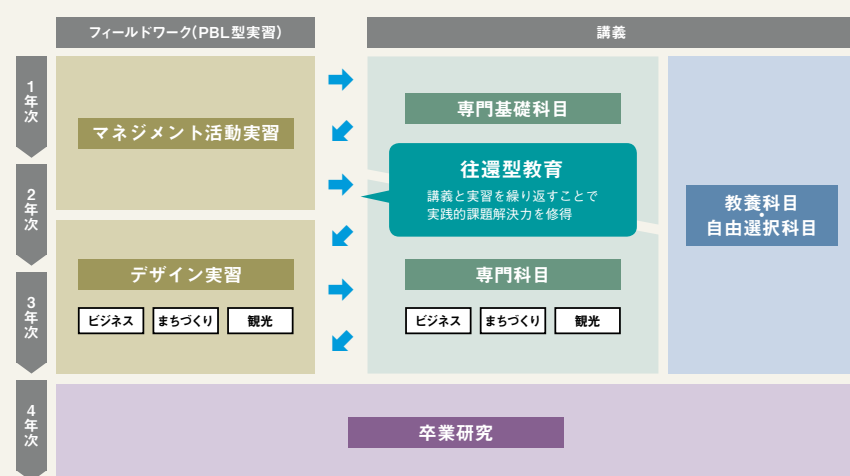
実習以外の部分では、デザイン思考論やプロジェクトマネジメント論、経営戦略論などビジネスの基礎的な部分を半期で学習。学びのイメージ

を深めた後、財務諸表分析、リスクマネジメント論、生産管理論など、より専門性の高い分野を学んでいき、最終的にはプログラムの集大成として実習の成果を発表します。

実際の企業の現場に足を運び、何かを見つける。この「現場での経験」を大切にしています。企業といってもさまざまな業界、形態があります。それを肌で知ることが何より大事であり、実際の現場で気づきを得ることで、実社会で役立つ応用力を身に付けてもらいたいと考えています。



岐阜大学社会システム経営学環のカリキュラム





高木 朗義 教授
まちづくり



出村 嘉史 教授
都市形成史・景観計画



李 侖美 准教授
経営・経済農学

FC岐阜のプロモーション戦略立案など
学生主体で3つの活動に取り組みます。

まちづくりデザインプログラムでは、さまざまな立場が協働する持続的な地域経営を考え、場の価値を創造する仕事の作り方を学びます。

まちづくりデザイン実習では、学生たちが複数のプロジェクトを同時並行で進めていきます。初年度は、プロサッカークラブ「FC岐阜」のプロモーション戦略、美濃加茂市の合同会社カモケンラボが駅前の空き家をリノベーションして展開する地域活性化プロジェクトなどの活動に取り組んでもらう予定です。何か一つをメインの活動に据え、それ以外のプロジェクトにも積極的に参画することで、実体験を通じた多角的な学びを提供していく考えです。

このほかにも、まちづくりデザイン演習に関わる教員たちは、岐阜県内のさまざまなプロジェクトに関わっています。岐阜市の課題を抽出して提言する、柳ヶ瀬商店街で新た

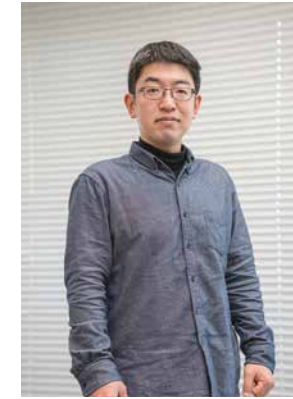
なイベントを企画する、道の駅の新設計画に関わる、担い手不足による耕作放棄地を復活させるなど、さまざまな角度から地域が抱える課題に向き合い、プロジェクトを自ら推進する経験を得ることが可能です。また、講義においては、リスクマネジメント、パブリックマネジメント

など、コミュニティで今一番課題となっている分野を中心に深く学ぶことができます。

まちづくりの課題解決は、当事者不在では進みません。現場に足を運び、当事者の声を聞きながら、課題の本質を突き止めることが大事です。そして自ら課題を抽出し、経営の視点を活かしてビジネスに仕立てる経験を積むことで、どんな分野でも活躍できる現場対応力、起業家精神を持った人材の育成を目指しています。



三井 栄 教授
計量経済学



森部 純嗣 准教授
生物資源保全学



奥岡 桂次郎 准教授
環境システム工学



肥後 陸輝 教授
里山保全学

2泊3日の観光ツアーを学生が企画・実施し、
実体験を通じて企画立案力を養います。

観光デザインプログラムでは、観光が生み出す価値に着目し、地域資源を活用した地域ブランドの構築と、観光に関する企画立案を行うスキルの習得を目指します。

観光デザイン実習では、岐阜県を観光モデルとし、まずは学生たちが県内の地域資源を知るところから学びを深めていきます。2年生後期は、実際に現地へ出向き、その土地が持つ文化や歴史を掘り起こしてビジネスにつながる地域資源を調査します。3年生前期からは、観光客が地域に滞在することを想定し、周遊型の2泊3日の観光ツアーを考案する計画です。これまでも地域科学部の専門セミナーでは同様のツアーを企画する試みを行ってきましたが、社会システム経営学環ではこれをさらに発展させ、実際に観光ツアーを実施するところまで行きます。観光ビジネスを成功に導くには、集めたい観光客層のターゲット

を明確にすることが非常に大切です。学生自身がこれまでの分析を踏まえ、具体的な工程や収支についても計画を練り、地元のバス会社や旅行会社とタイアップした企画を実施することで、机上の空論で終わるのではなく、実体験からさまざまな学びを得てもらうと考えています。さらには、観

光学、里山保全論、地域デザイン論、資源マネジメント論などの講義を通じて、観光に関連した多岐にわたる分野を学習し、座学と実習を繰り返すことで学びをより一層深めていきます。

観光デザインプログラムの特徴は、観光学に特化するのではなく、幅広い分野を網羅的に学べる点にあります。多角的な視点を養うプログラムを通じて、観光産業が抱えるさまざまな課題に主体的に取り組む、地域に貢献できる人材を育成していきたいと思います。



学校の統廃合から漫画まで、 身近な題材で社会問題を考える 「シティズンシップ教育」を研究。

市民性(シティズンシップ)教育としての社会科教育論を研究しています。

「中学生が政治家と身近な政治の問題を活発に議論する」「漫画や音楽、映画に隠された社会問題を掘り起こし、話し合う」といった現実的な題材を取り上げ、教育や実践を通して社会のことを自分で考えるきっかけをつくる授業を展開しています。授業・教育を通して寛容な社会を創造したいと考えています。



岐阜大学教育学部
社会科教育講座
田中伸准教授

理想論ではなく現実的な学びで、
自ら社会に参加する主権者を育成。

市民性(シティズンシップ)教育とは、少し丁寧に言うと、「皆で創り上げる民主主義社会において、社会や政治をしっかり考え自ら参画する市民=主権者を育成すること」です。本来の社会科教育の在り方とも言えます。

日本の社会科教育の問題点は、議会制度などの知識や「投票で社会は

変わる」といった理想論を教えることに留まる場合が多い点にあります。知識だけなら専門家の論文を検索して読む方が、はるかに多くを学べます。また高校生になれば、派閥や政党といった政策集団を形成することで社会を動かす場合が多いことも知っています。目の前の現実と違う理想ばかり教えられても、学ぶモチベーションは高まりません。現実における問題点を見出し、解決に向けて自分で考えられるような教育

が必要とされているのです。

私が研究しているシティズンシップ教育の手法は、リアルな題材を通じて社会を批判的・分析的に考えようというものです。大別して、二つの取り組みを行っています。

一つ目が「学校と社会をつなぐ実践」として平成28年から毎年実施している「Discuss Our Society」。例えば、校舎の老朽化と少子化に伴う学校統廃合の問題を中学生が議論して、彼らなりの政策を立案。招いた

実践テーマと内容

【ヒップホップを通して国際地理を探究する】

世界の場所に関する自然・人文地理の特徴を理解する
[教材:dj honda, DMX, アリーシャ, ジェット・リー, スヌープ・ドッグ「Beautiful」]

【ラベリングを疑う——「トリセツ」を用いた自己認識の批判的検討】

社会に対する多様な見方・考え方を育成
[教材:西野カナ「トリセツ」、AKB48「目撃者」、さだまさし「関白宣言」]

【社会科を科学する！理想の社会をデザインし、政治家へ提案してみよう！】

現実社会の分析をすることで論理的思考力を鍛える
[実践:政治家と論争]



学生有志でつくった「岐阜県若者の選挙意識を高める会」が「岐阜県知事選マニフェスト分析」に取り組み、医療や経済、環境、教育など8つの項目を10段階で評価。政治に対する熱意や創造力、公約の実現可能性などを話し合った。

政治家と互いに真正面から意見をぶつけ合うものです。もう一つの取り組みは、漫画や音楽、映画などに隠れた社会問題を議論する「サブカルチャーを用いた授業」です。「自由とは何か?」から、民主主義、ジェンダー、アイデンティティなどをテーマにしています。小学生にいきなり「本当の自由について考えてみよう」と言ってもピンときませんが、人気漫画の主人公を題材にすると「わがこと」として考えられ、活発な議論が起こるためです。

社会問題に正解はありません。私も策定に携わった平成29・30年改訂の新しい学習指導要領では、一つの問題を複数の視点で見ることの大切さを提示しています。学校で学べることはごくわずかですが、そこで一度でも社会を批判的に見る経験をおけば、後の長い人生においても継続的に社会を「わがこと」として考え、互いに議論できるための下地となるでしょう。学校教育と連携してそのようなきっかけを、子どもたちの意欲や理解度に合わせて伝えたいと思っています。そのために、私の研究は教育方法を理論化するだけで終わりではなく、岐阜県内外の学校での実践を行っています。例えば、小学校教員の元ゼミ生の一人は、廊下を走った生徒を別の先生が叱る光景を見て、「なぜ廊下を走ってはいけないか?」をホームルーム

で話し合わせるなど、日常的な教育の場に議論を取り入れています。生徒たちが運動を起こして不条理な校則を覆した高校の例のように、社会問題とは、誰かが声を上げて初めて問題となるもの。本来の民主主義社会では全員の議論によって決めるべきところを、密室で決められているルールがいくらでもあります。子どもたちには、そういった事実を目を向けられるようになってほしいと思います。

「わがこと」として考えられれば、
もっと寛容で生きやすい社会に。



私は子ども時代、学校の授業が嫌いでした。特に中学生になると教員が教える「正解」を疑い、そのような教育を変えたいと社会科教員を志しましたが、大学院生時代の研究に魅せられ、現在の道に進みました。当時、関心を持ったテーマの一つが、「カルチュラル・スタディーズ」。文化の中でも伝統的なものではなく、サブカルチャーと呼ばれる音楽や漫画、映画に隠された思想や価値観を分析する研究分野です。も

う一つ、アメリカの社会科教育も興味深い分野でした。ヒップホップの歌詞として広まった中学生の妊娠問題を授業で話し合うなど、身近な文化に潜むリアルな問題を、当時からすでに教育現場で取り入れていたのです。こうした関心が、現在の研究へとつながっています。

今後の目標は、子どものモチベーションをより喚起する学びのあり方を研究すること。その手段の一つとして、「Discuss Our Society」や「サブカルチャーを用いた授業」をより多くの学校で実践し、子ども・学校・社会をつなげていく学びを考えたいと思います。また、設立したベンチャー企業を通じてオーダーメイドのカリキュラム作成も行うなど、現実的な学びを推進します。

私は「社会を皆で創り出す」という言葉を大切にしています。諸外国では国民が政治をきちんと引き受けて「わがこと」として考え、政府を信頼し、政策への賛否があれば賞賛やデモの形で意思表示します。一方、政府に丸投げする「おまかせ民主主義」の日本は、政治不信が根底にあり、問題が起きると批判と怒りの声ばかり巻き起こります。誰もがまず「自分ならどうするのか?」と考えられるようになれば、現在の不寛容な社会から、信頼を基盤としたもっと柔らかく生きやすい社会へと変わるのではないかと思います。

電磁波を可視化する計測技術を開発し、テラヘルツ波の可能性を切り拓く。

第5世代移動通信システム「5G」や自動運転に欠かせない車載レーダなど、さまざまな産業でミリ波・テラヘルツ波などの高周波電磁波が注目されています。私たちの研究室は、こうした高周波電磁波を実環境において可視化する計測技術の世界で初めて開発。実社会に役立つ応用研究に日々取り組んでいます。



岐阜大学工学部
電気電子・情報工学科
久武 信太郎 准教授

実測による高周波電磁波の計測技術を確立。

私たちの研究室では、電磁波とフォトニクス（光工学）の技術を融合させた新技術開発に挑戦しています。携帯電話やスマートフォンに代表される無線通信の多くは1GHz程度の電磁波が使われています。一方、話題の第5世代移動通信システム「5G」には6GHz程度と28GHz、自動運転に欠かせない車載レーダには24GHzや77GHzといった高周

波電磁波^{※1}が用いられています。ミリ波（30～300GHz）やテラヘルツ波（300GHz～10THz）と呼ばれる高周波電磁波は、高速・大容量無線通信や高分解能レーダなど、さまざまな産業への応用が期待されています。ただ、高周波電磁波を確実に活用するには、実際の利用環境で電磁波がどの方向にどれだけ放出されているのかを計測する必要があります。シミュレーション技術で可視化する方法もありますが、高周波になるほどシミュレーション結果と実際の状

況との差異が大きくなります。そこで私たちは、フォトニクス技術を活用することで、高周波電磁波をより高精度・高確度で計測する技術の開発に取り組みました。

学術的な興味から計測技術を開発しましたが、これを社会実装（産業応用）することを考えたきっかけは、文部科学省が主催する次世代アントレプレナーシップ育成事業へ参加したことでした。私は起業家を育成するプログラムを作成する教員の一人としてアメリカ・西海岸でトレーニング

を受け、現地の起業家と交流する中で、自身の研究を深めるだけではなく、その研究を社会が抱える課題を解決するビジネスにつなげることの重要性を感じました。そんな思いを抱いていた矢先、知人の経営者から「車載レーダが見える化できないか」と相談を持ちかけられました。ちょうどその頃、アクセル操作なしでも自動でスピードを保つオートクルーズ機能を搭載した車に乗っており、トンネル内でレーダがうまく作動しないという怖い体験をしました。その時、「これを改善できれば社会に役立つのではないか」と考えたのです。

研究室の中だけではなく、
実社会で役立つことを意識。



社会で役立つためには、実験室内だけではなく、私たちの生活空間である「実験室の外」で使える技術でなければなりません。従来の電磁波

測定方法では、測定対象であるアンテナ端子を持たない車載レーダなどの計測装置から基準信号を入力したり、測定対象から基準信号をケーブルで引き出したりする必要があり、信号を入力する端子を持たない車載レーダを測定する際は車に入力端子を取り付けるなど改造しなければなりません。また、電磁波の放射パターン測定は電波暗室内で行っていたため、実環境からかけ離れた状況で測定をしていました。そのため、測定対象と計測装置を独立させ、対象を改造することなく波源から放射される高周波電磁界の振幅と位相の空間分布を可視化できる方法を考案。技術の開発に、世界ではじめて成功しました。

電磁波領域の中でもいまだ未開なのがテラヘルツ波帯です。テラヘルツ波帯の今後の活用を考えるうえでは、これを計測する技術が欠かせません。そこで私は、開発した計測技術を社会で広く活用するため、令和元年に岐阜大学発ベンチャー認定企業の第一号として「フォトニック・エッジ」を設立。同社では、大学で開発した先端技術を用いて、テラヘルツ波帯における物質の基礎特性の

測定や電磁波吸収材の性能評価、車両部品による電磁波散乱現象の可視化などに取り組んでいます。

研究室ではこのほかにも、次世代通信システム「6G^{※2}」を見据えたテラヘルツ無線通信アンテナの開発を進めています。発端は、小さなキューブ状の誘電体に当たった電磁波を可視化する研究を行っていたところ、この小さなキューブ状の誘電体が小型アンテナに活用できそうだと気づいたことから、テラヘルツ無線通信用の小型アンテナの開発へとつながりました。テラヘルツ波はより高速の無線通信が可能ですが、スマートフォンへの実装を考えると小型かつ高利得のアンテナが必要不可欠でした。

私たちが生み出した計測技術をきっかけに、新たな技術と産業が組み合わせ、真の技術革新が生まれることを期待します。大学で研究開発をすることも大切ですが、学術的興味を駆動力として大学でゼロから開発された技術をいかに社会実装していくか、これも重要だと考えています。大学での研究活動とその成果を社会実装するための活動を通して、社会課題を解決する革新的技術を生み出す人材を育てていきたいと思っています。

高周波電磁波を可視化する3つのコア技術

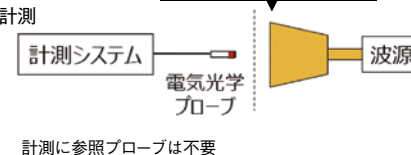
①ミリ波・テラヘルツ波を低周波に周波数変換する光技術

高精度・高確度で振幅と位相の可視化が可能

②非同期計測技術

実車を対象とした計測

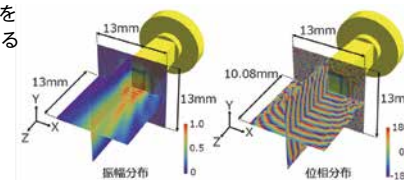
波源と測定システムは独立



計測に参照プローブは不要

③光周波数トラッキング技術

レーダ信号を対象とできる



Beyond 5G/6G時代を見据え、300GHz帯テラヘルツ無線で動作する超小型アンテナの開発に成功

電磁波の空間分布は計算できるが、アルミホイル表面の凹凸状態を正確・精密に計算機に入力することは困難。そのため、実測により可視化することで正確な電波状況を把握することが可能に。

用語解説

※1 高周波電磁波

電磁波は、放射線や太陽光線、家電製品から発生する電波などの総称。1秒間に繰り返す振動の数を周波数という。混信を避けるために、周波数ごとに電磁波の利用用途は割り当てられている。これまでは比較的低周波数のマイクロ波帯が利用されていたが、今後はより高い周波数であるミリ波・テラヘルツ波帯も利用することが考えられている。

※2 6G

第6世代移動通信システム。「G」とは、Generation（世代）の意味。第5世代移動通信システム「5G」の次の世代の無線アクセスシステムのこと。5Gの特長である「超高速」「超低遅延」「多数同時接続」のさらなる高度化に加えて、高信頼化やエネルギー効率の向上など新たな技術への活用が期待されている。



コーディネーター教員
岐阜大学教育推進・学生支援機構
廣内 大輔 准教授

アドバイザー教員(令和2年度)
岐阜大学教育学部学校教育教員養成課程
英語教育講座
瀧沢 広人 准教授

全学共通教育科目「学びをデザインする」

「今いちばん関心あること」を突き詰められる、最も自由で最も過酷なアクティブ・ラーニング志向科目。

「今あなたが最も関心のあることを突き詰めると、単位がもらえます」「トライアスロンに挑戦するくらいの気持ちで来てほしい」。全学共通教育科目「学びをデザインする」を履修する学生にそう説明しています。自身が興味のあるテーマを探究する授業のため、教育学や化学、数学など専門分野を突き詰める人や所属する生物系サークルの活動を取り上げる人、文学作品の映画化・アニメ化について研究する人など、対象とするテーマは実にさまざまです。

「学ぶことの面白さを大学生活の早い段階で経験してほしい」という教員の思いと、意欲的な学生の「学部・学科にとらわれずに興味のある分野の学びを深めたい」という声から、平成27年度に開講しました。授業では学生が自由に研究テーマを設定し、学内全教員の中から直接交渉してアドバイザー教員を選びます。

対象学生：全ての学士課程学生 履修期間：後学期

教員が学生に対して研究テーマを示すのではなく、学生が自分でテーマを決定。自身で指導教員となるアドバイザー教員を探し、主体性を持って計画的に研究を進める全学共通教育科目。自ら学びを設計し深めるアクティブ・ラーニング促進型の科目です。

応用生物科学部の学生が文学系の教員に指導を仰ぐなど、学部・学科を超えるケースも。また、コーディネーター教員は履修者全員が研究テーマの進捗を発表する「報告会」を5回実施し指導するなど、必要最小限のサポートをします。

「学びをデザインする」の授業で期待する効果は、情報収集や計画実行、思考判断、文章執筆といった能力の習得です。通常は4年次の卒業研究や卒業論文で習得する力を早期に身につけ、後の学びをより有意義なものにしてもらいたいと考えています。アドバイザー教員が最初に

具体的な研究方法を助言すると、後は学生自身が主体的に研究を推し進めることになります。なじみやすい授業名に反して、全学共通教育科目の中で最も単位取得が難しくなっています。それだけに、1万文字程度のレポートを完成させ単位を取得できた学生は、その分野に関する講義が2・3回分できるほどに成長しており、自信を得たように見受けられます。「もっと探究を続けたい」という学生もいますので、将来的には「学びをデザインするⅡ」を開講し、学生の意欲に応えたいと考えています。

授業の概要と特色

岐阜大学のアクティブ・ラーニングとは…

学生が自らを取り巻く課題や自ら見つけたテーマについて個人またはグループで探究する意欲的な学びのこと。一般には教員が用意したテーマをグループワークなど座学以外の方法で学ぶのに対し、岐阜大学では学生自身が課題やテーマを見つけ、形式にとらわれず、主体的・能動的に学びに取り組むことを追求しています。

1年次前学期 初年次セミナー

【目的】 ●資料の探し方・レポートの書き方など、大学で学ぶための基本的な知識を身につける。

実践

後学期 学びをデザインする

【目的】 ●「初年次セミナー」で培った大学における自主的な学びを実践し、より確実なものとして体得する。
●自律的に学習できる人間になることを目指す。

特色1 前学期に実施する
事前説明会に必ず参加する

特色2 履修者自身が
研究テーマを決める

特色3 履修者自身が、助言してくれる
アドバイザー教員を探す

授業モデル

- 履修者集合、全体ガイダンス
- アドバイザー教員と研究計画について相談し、決定
4. 適宜、アドバイザー教員より助言を受けながら研究
5. 第1回 中間報告会
- 6~8. 適宜、アドバイザー教員より助言を受けながら研究
9. 第2回 中間報告会
- 10・11. 適宜、アドバイザー教員より助言を受けながら研究
12. 第3回 中間報告会
13. 適宜、アドバイザー教員より助言を受けながら研究
14. 最終レポートを仕上げる
15. 最終発表会

発表会の内容

- 【準備するもの】
レジュメ（紙の資料）、パワーポイントで作成したスライド
- 【進め方】
●発表者による15分間のプレゼンテーションを実施（必ず15分をフルに使った発表）
●他の受講者による発表者への1つ以上の質問、またはコメントを発表



目標

「岐阜大学学生レポートコンテスト」への挑戦

岐阜大学学生レポートコンテスト

卒業論文発表のように研究の成果をアウトプットする場として「岐阜大学学生レポートコンテスト」を開催し、学ぶ意欲を刺激しています。最優秀賞、優秀賞、佳作に選ばれた学生は表彰され、副賞を贈呈されます。また優れたレポートは公開され、後の学生の学びに役立てられます。



第5回岐阜大学学生
レポートコンテスト表彰式

これまでの
入賞作品は
こちら



年報第2号以降の巻末に記載

学生インタビュー



岐阜大学教育学部
英語教育講座
2年 岩井 亮磨 さん

ずっとやりたかった教育学の研究に専念できた。

教育学を勉強しようと意気込んで入学した直後、緊急事態宣言による外出自粛で想定外の大学生活がスタートしました。そんな時、シラバスに「自分の興味ある分野を研究できる」と書かれていたのに惹かれ、履修を決めました。選んだテーマは、私自身が影響を受けた小学校時代の先生の指導法について。研究の準備や研究材料の収集に想像以上に苦労しましたが、恩師へのイン

タビューを通じて研究した内容が専門書の内容と合致したとき、「だから先生はこう指導していたんだ!」といった発見があり、面白さを実感しました。また、レポート作成する過程の大変さも学ぶことができました。やりたいことを思うようにできない今の時期だからこそ、自由に研究ができたこの授業はとてもありがたかったです。



「看護職のキャリアについて、考えるきっかけとなる情報を発信したい。」

「看護職を目指す学生に、将来のキャリアについて見つめ直すきっかけをつくりたい」と、看護学生向けWEBサイト「看たまノート」を立ち上げ、運営する野村奈々子さん。岐阜大学の「学生支援プロジェクト事業」、「東海地区スタートアップエコシステム構築に向けた起業支援事業」を活用した「看護学生のためのキャリア支援プログラム」の企画やフリーペーパー「看たまボックス」を発行するなど、精力的に活動をしている。



看護師のたまごのためのWEBサイト「看たまノート」運営者

野村 奈々子 さん

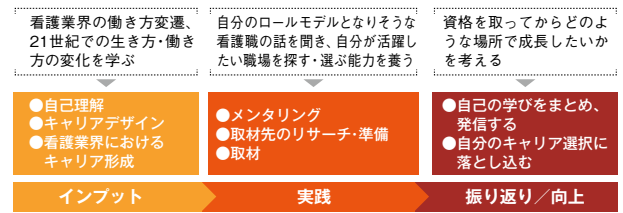
岐阜大学医学部 看護学科4年

看護師のたまごのためのWEBサイト「看たまノート」

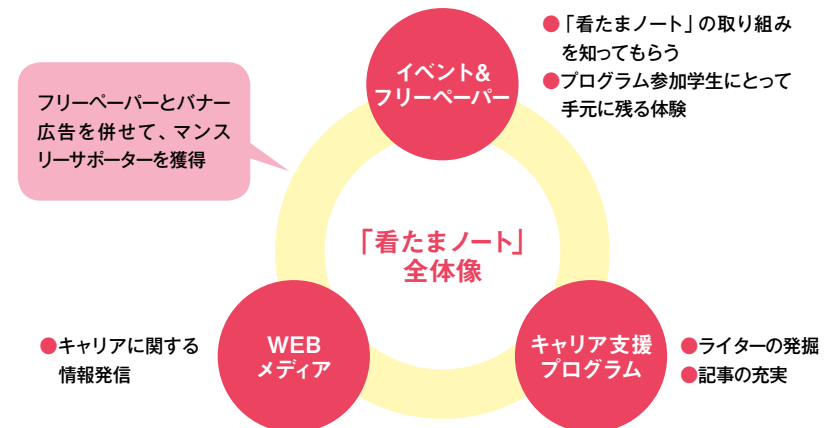
看護職を目指すすべての学生をターゲットに、岐阜大学医学部看護学科の学生が中心となって運営するWEBサイト。さまざまな現場で働く看護職や医療従事者のインタビュー記事を中心に掲載し、資格を活かした多様な働き方など将来のキャリアについて考えるきっかけを提供する。また、全国の医療系サークルの紹介や学生同士の情報共有、各地で行われる医療系イベントのレポート、国家試験や就職に関する情報など看護学生にとって身近で役立つ情報も掲載している。

【看護学生のためのキャリア支援プログラム】

看護業界の働き方の変化などをワークショップや講義で学んだ後、自分の興味や将来の方向性を整理し医療関係で働く人との対話を実施。学びを言語化し考えるきっかけを促すため「看たまノート」に掲載するインタビュー記事を作成。自分のありたい姿に向けて道を選択できる看護職のたまごを育む。



「看護学生にむけたキャリア支援で後ろ向きな離職を減らす」ことをミッションに掲げ運営するWEBサイト「看たまノート」。



自分で活躍の場を選ぶことができる 看護職のたまごを増やしていきたいです。

資格取得後のキャリア形成に危機感を抱いていました。

高校生の時、あるきっかけから看護職の離職や職場環境に興味を持つようになりました。「自分の目で現場を見たい」との思いから岐阜大学の看護学科に進学しました。進学後は先輩看護師が1年目で現場を離れるなど暗いエピソードを聞く度に、生き生きと働き続けるために学生のうちにできることは何かを考えていました。ところが、多くの看護学生はそのことに問題意識を持っておらず、危機感を覚えました。そこで、卒業後のキャリアについて見つめ直すきっかけがあったらと思い、大学1年生の時にWEBサイト「看たまノート」を立ち上げました。

WEBサイトのデザインは元エンジニアの恩師にお願いしましたが、ともに情報発信してくれる仲間が見つかりませんでした。そこで

岐阜大学の「学生支援プロジェクト事業」、「東海地区スタートアップエコシステム構築に向けた起業支援事業」に応募し「看護学生のためのキャリア支援プログラム」を自ら立ち上げました。プログラムに参加する学生が自分の興味ある領域で活躍する看護職の方に取材をし、「看たまノート」に掲載するインタビュー記事を書くというものです。実際に、キャリアに悩みぬいた先輩看護職の生き方に触れてもらうことで、自分の将来について深く考えるきっかけをつくることができました。

活動が必要とされていると感じ、続けることの価値を実感。

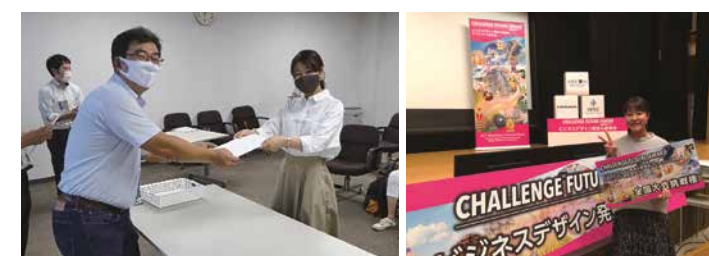
「看たまノート」を始めた頃は臨床の現実よりも、問題意識を持っていない看護学生に、情報発信することで想いは届くのだろうか？という点に不安を感じていました。そんな

時、取材で出会った医師から、看護職が活躍できるような職場環境を変える努力をしているという話を聞き、状況を変えようと動いている人々がいることに励まされました。以来、希望を持って「看たまノート」の運営に取り組んでいます。「学生の頃に看たまノートがあったらな」「これからの看護職の人には本当に必要だよ」と現役の看護職やキャリア支援に携わる医療従事者に言われることで、自分の活動に希望が持てます。

この活動をもっと広げるためには一緒に運営してくれる仲間がほしい。そのためには自分自身ももっと成長するべきだと思い、現在は休学して若手起業家育成の私塾で学び、違う分野で頑張る人たちから刺激を受けています。休学を選択して学ぶことや「看たまノート」を運営する自分の道のりもまた、誰かのロールモデルになれたら嬉しいと思います。



WEBサイト「看たまノート」の発信内容をより多くの看護学生に直接的に学びや問いを届けたいとの思いから、令和3年3月、フリーペーパー「看たまボックス」を発行。



「看護学生のためのキャリア支援プログラム」(写真左)は、令和2年度岐阜大学学生支援プロジェクト事業に採択。さらに、「東海地区スタートアップエコシステム構築に向けた起業支援事業」にも学生ながら採択された。また、学生起業家の登竜門ともいわれるビジネスコンテスト「第17回キャンパスベンチャーグランプリ」にも参加し、キャリア支援プログラムのアイデアについて中部大会では中部経済産業局長賞、全国大会では審査委員会特別賞を受賞。プロジェクト事業の資金やコンテストの賞金を有効活用しながら「看たまノート」を運営している。

コロナ禍における 岐阜大学の教育学生生活に関する取り組み



岐阜大学 学長
森脇 久隆

安心して学べる 環境づくり

本学は、新型コロナウイルス感染拡大の状況を見極め、国・県の対策方針や専門家の意見を取り入れながら、学生をはじめとする大学構成員の安全を確保しつつ充実した教育を行う

方策を検討してきました。また、コロナ禍で不安になっている学生の心のケアについても対応してきました。大学教育は知識習得のみを目的とするものではなく、事象に対する判

断や考え方を深く学ぶことができる対面授業は大学教育の根幹を成すものだと考えから、特に大学の学びに慣れていない1年生の授業については、できるだけ対面授業が実施できるよう、早い段階から努めてきました。

これから岐阜大学入学を目指す皆様にも安心して大学生活を送ってもらえるよう、本稿で本学の取り組んできたコロナ対策の一部をご紹介します。今後も、より一層安全に配慮しながら教育の質の向上を目指してまいりますので、皆様のご理解・ご協力を賜りたいと思います。

授業における取り組み

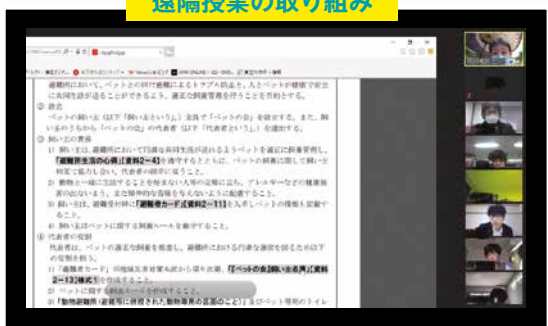
教室の定員制限



消毒、ウェットティッシュの配置



遠隔授業の取り組み



ZOOMを活用した授業の様子

教室の密状態回避のため、受講者数が教室定員の6割以内になるよう履修登録者数を制限し、さらに大学内の滞在者数も通常の6割程度に抑えるため、教育の質を確保しつつオンライン授業の導入などの工夫を行ってきました。また、各教室や各フロアに消毒液やウェットティッシュを配置したり、マスク着用を促すポスター等を作成したりするなど、感染予防の呼び掛けを日常的に行っています。

学生生活における取り組み

昼食時の食堂の混雑解消のため、キッチンカーを学内に配備するとともに、食事をする場として一部の教室を開放しました。また、岐阜大学生協の協力を得て、食堂にパーティションを設置し、感染防止に努めています。

食堂のパーティション配置等



昼食用に教室を開放



混雑緩和のための キッチンカー



相談無料で
秘密は守られます

メンタルヘルスのオンライン相談



問い合わせはこちら

保健管理センターでは
皆さんが健康な学生生活を
送れるようサポートしています。



新型コロナウイルス感染拡大防止措置としてサークル等の課外活動が制限されるなど、友人と会って会話したり相談したりする機会が減ってきています。そうした状況に不安を抱える学生をケアできるよう、精神科医や臨床心理士によるメンタル・ヘルスのオンライン相談を開始しました。一人で抱え込まず、ぜひ保健管理センターで専門家に相談してください。

金銭的支援

PC・タブレットの購入支援

学内の密状態を回避するオンライン授業に対応するために急速パソコンやタブレット等の購入が必要になった学生に対し、購入費の無利息貸付(上限10万円)を行いました(成績が優秀であれば返還が免除されます)。

留学生支援

留学生に対し、入国後の防疫措置によりホテル等に滞在する際の費用の一部を支援し、新型コロナウイルス感染拡大の影響で緊急に資金が必要な場合に利用できる、無利息での一時貸付を行いました。また、特例として、帰国困難者に対しては、留学生宿舎の入居の延長措置を行いました。

学生支援プラン

本学独自の「学生支援プラン」の取り組みとして、親元を離れ大学生活を送っている学生に、学業に安心して専念でき、夢をあきらめることなく前向きに学生生活が送れるよう、生活支援金(3万円)の給付を行いました。

学生を大学で雇用

新型コロナウイルス感染拡大の影響でアルバイト収入がなくなった学生を雇用し、オンライン授業の資料作成や授業撮影、動画編集等を行っていただきました。この取り組みは、学生の生活支援につながっただけでなく、授業担当の先生方の負担減にもつながったため、たくさんの先生方から感謝の言葉をいただいています。

多くの皆様から岐阜大学基金へ ご寄附をいただき、心より お礼申し上げます。

岐阜大学基金創設の趣旨

本学が、更なる飛躍発展を遂げ、地域社会からの信頼と期待に応え、地域社会に貢献できる大学としての責任を果たすためには、流動的・機動的資金の運用が可能である基金が必要であることから、平成21年6月に創立60周年記念を契機として「岐阜大学基金」を創設いたしました。
この基金は、多くの皆様のご協力により、学生に対する奨学金や国際交流事業、特色ある研究活動への支援、地域社会への貢献事業、キャンパス整備など継続的な教育研究活動に活用することとしております。

ご寄附者芳名録

令和2年10月から令和3年2月末までにご寄附いただいた方で、掲載をご了承いただいた方を五十音順に感謝の意を含め、ご紹介させていただきます。また、3月以降にご寄附をいただきました方につきましては、次号にて掲載させていただきます。なお、本学役職員につきましては割愛とさせていただきます。
岐阜大学における新型コロナウイルス感染症対策を含む学生支援、国際交流、特色ある研究活動及び地域貢献などを充実・発展させるために、なお一層の岐阜大学基金へのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

青木勢津子様	岩田哲夫様	小野成夫様	小山康介様	高橋知也様	丹羽祐勝様	水庫利重様
青柳すみ様	岩田紀治様	梶川正勝様	近藤富雄様	高橋正和様	野口勇夫様	水野芳晴様
赤木千香子様	岩田元様	糟谷聡介様	酒井要様	高橋睦様	野々村修一様	三宅収様
浅野勝正様	岩本典子様	勝野高志様	坂井繁之様	高見浩三様	野村志保子様	三宅喬人様
新井正様	上田千秋様	加藤哲様	坂井進様	武市淳様	野村泰成様	宮武博明様
荒川淨信様	植田尚義様	加藤順子様	坂口卓蔵様	武市秀治様	野村弘様	三輪妙子様
嵐千明様	上田元信様	加藤利純様	坂口義男様	竹川良彦様	野村佳子様	三輪誠様
安藤柁博様	上田悠祐様	金沢政樹様	坂倉健男様	武田暁朗様	早川享志様	向島昌雄様
飯田辰美様	鶴岡久子様	神谷節子様	坂下盈彦様	武田恒夫様	早川誠一様	武藤哲夫様
生田匡様	宇都宮次子様	亀井隆様	佐久間喬様	武久洋三様	早川真理子様	宗森良枝様
池森亮様	梅岡昭生様	梅岡淳匡様	酒向年雄様	田中五百子様	早矢仕郁夫様	村上啓雄様
井坂健司様	遠藤宣行様	亀谷正明様	酒向重豊様	田中啓子様	林秀男様	村瀬竜介様
石黒直隆様	近江英家様	河口康二様	佐治重豊様	田中孜様	林美和子様	銘苅敏夫様
石塚達夫様	大江信二様	川口修治様	佐竹覚様	田中茂様	林睦齊様	榎山喜良様
石飛雅代様	大竹義章様	河村博司様	佐藤祐一様	田上豊子様	春本常雄様	守屋文香様
石原之弘様	大塚誠代様	菊田淳様	茂野一彦様	谷本浩一様	日比野慎吾様	安田寛二様
市野秀吉様	北川勇吉様	北川精一様	柴田昌利様	田淵正康様	平田史子様	安田高明様
市原美里様	大橋和義様	木村志つ様	清水範子様	玉井裕也様	藤田亜子様	弥富章様
伊藤克己様	大洞勇二郎様	久保昭人様	下平友人様	玉置嘉輝様	藤田孝子様	矢野大仁様
伊藤友美様	大町深雪様	熊田夕果様	末宗浩様	塚本駿様	船戸孝司様	山岸篤至様
伊藤秀久様	緒方晃子様	倉本弥生様	杉浦一保様	梶尾義昭様	舟橋まゆみ様	山口賢三様
伊藤博一様	岡田幸助様	桑原富子様	杉山茂樹様	築山茂様	古田晋成様	山下新太郎様
伊藤正人様	岡田正康様	額貴美子様	杉山七郎様	鶴田真太郎様	細田文一様	山中實様
稲葉友広様	岡田実様	高良広美様	杉山達彦様	出口京子様	前田千寿子様	横田貞夫様
井上進様	隠岐京子様	古賀英一様	鈴木正典様	中村豊様	松岡恵子様	吉川利彦様
井上博善様	奥田晏弘様	五島説司様	台岳巖雄様	成田千果様	松坂吉偉様	吉田政直様
今井康博様	奥野毅彦様	小島孝博様	台岳民子様	難波克行様	松下捷彦様	若原和男様
今原照之様	奥村俊幸様	兒玉政七様	高木正巳様	仁木俊夫様	松田明様	渡辺脩様
今福貴史様	小栗敬彦様	小林房代様	高取陽子様	西村千恵美様	松永慈海様	
岩田和彦様	小栗奈津子様	小林勇樹様	高橋哲司様	西本昇平様	松永隆信様	
岩田忠久様	尾関富彦様	小見山輝人様	高橋敏彦様	西脇伸二様	馬淵 惺之様	

他197名様

法人・団体等

(一社)あかつき心理教育相談室 様	(株)オーテックス 様	さとう写真館 様	ミニストップ(株) 様
(株)天野企画 様	おおのレディースクリニック 様	SANEI(株) 様	他4法人
(税)市川会計事務所 様	岐阜大学馬術部岐鞍会 様	(株)泰成工業 様	
大垣精工(株) 様	(医)ささき小児科 様	中部ジオテック(株)・(株)十六銀行 様	

岐阜大学基金の詳細については、WEBをご覧ください。
<https://www.gifu-u.ac.jp/fund/>



岐阜大学基金についてのお問い合わせ先
国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学Development Office (DO室)
〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1番1
TEL 058-293-3276 FAX 058-293-3279 E-mail kikin@gifu-u.ac.jp

岐阜大学オリジナルグッズ新発売



Ⓐ 岐阜大学マスキングテープ
290円



Ⓑ 岐阜大学タオル
1,320円



Ⓒ 岐阜大学ハンカチ
550円

岐阜大学オリジナルグッズに「マスキングテープ」「タオル」「ハンカチ」が新たに仲間入り。岐阜大学の学生、教職員、教育学部附属小中学校の生徒から応募された50点を超えるデザインの中から最優秀賞を受賞した工学部4年生 河合杏奈さん、優秀賞を受賞した教育学部3年生 大島優香さんが考案したデザインを採用しています。

※所属・学年は受賞当時のものです。※表示価格は税込です。

販売店

岐阜大学生協中央店 ----- Ⓐ Ⓑ Ⓒ
岐阜大学医学部附属病院内売店 -- Ⓑ Ⓒ

アンケートにお答えいただくと抽選で岐阜大学オリジナルグッズが当たります。詳しくは裏面をご覧ください。

岐大のいぶきへの 広告掲載について

岐阜大学広報室では、広報戦略に資することを目的に、広報誌「岐大のいぶき」の広告を募集しております。詳しくは下記にお問い合わせいただくか、QRコードのリンク先をご覧ください。

【お問い合わせ先】
国立大学法人東海国立大学機構
岐阜大学管理部総務課広報室広報係
〒501-1193 岐阜市柳戸1番1
TEL:058-293-2009/3377 FAX:058-293-2021
e-mail:kohositu@gifu-u.ac.jp



It's a piece of cake



気楽に
相談できる
病院へ



医療法人 徳洲会
大垣徳洲会病院

〒503-0015
岐阜県大垣市林町6丁目85-1
電話：0584-77-6110(代表) FAX：0584-77-6125
<https://www.ogaki.tokushukai.or.jp>

WEB OPEN CAMPUS 2021 近日公開!!



新型コロナウイルス感染症対策のため、WEBオープンキャンパスを実施します。特設WEBサイトでは、大学説明や入試情報はもちろん、キャンパスの周辺マップや岐大生の1日などを掲載。実際に訪れることなく岐阜大学でのキャンパスライフをイメージできる内容となっております。

岐阜大学 WEB オープンキャンパス

検索

特設WEBサイトは
こちらから



大学構内で実施するオープンキャンパスの情報についても
上記特設WEBサイトにてお知らせします

アンケートに答えて 岐阜大学オリジナルグッズを GET!!



今後のよりよい誌面作りのため、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。岐阜大学広報誌「岐大のいぶき No.41」に添付されたアンケートハガキでアンケートにご協力いただいた方の中から、**抽選で6名様**に学生がデザインを考案した『**岐阜大学マスキングテープ(2種類)**』と『**岐阜大学タオル1色(色は選べません)**』を進呈いたします。プレゼントをご希望の方は、アンケートハガキにお名前、ご住所、電話番号をご記入ください。

プレゼント応募締切:
令和3年10月29日(金)必着

※当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。※重複での応募は無効とさせていただきます。



「岐大のいぶき」について

「いぶき」は、滋賀・岐阜県境にある伊吹(いぶき)山と生氣・活気を意味する息吹をかけて名付けられました。岐阜大学のある濃尾平野には、“伊吹おろし”と呼ばれる強い季節風が吹き込みます。これになぞらえ、本誌には、岐阜大学の活力(いぶき)を地域から世界へ感じさせたいという願いが込められています。

■発行：国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学広報企画室

■「岐大のいぶき」についてのご意見感想をお待ちしております。

送付先 / 国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学管理部総務課広報室広報係
〒501-1193 岐阜市柳戸1番1 TEL 058-293-2009 / 3377 FAX 058-293-2021
Email kohositu@gifu-u.ac.jp

岐大のいぶきは WEB からご覧いただけます!

<https://www.gifu-u.ac.jp/about/publication/publications/ibuki.html>



岐阜大学公式
Twitter
やっています。

@GifuUniv_PR

TWITTER, TWEET, RETWEET and the Twitter logo are trademarks of Twitter, Inc. or its affiliates.



こちらからアクセス!